

## ～令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から～

令和3年5月27日に全国学力・学習状況調査が全国の第3学年生徒を対象に実施されました。相原中学校生徒の結果について、校内において結果の分析を行い、本校のよい点や課題について整理いたしましたのでその概要をお知らせします。

なお、この本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂するのではなく、今後の教育活動に生かし、引き続き生徒一人ひとりの学力向上を目指し取り組んでまいります。保護者の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 1 教科に関する調査からわかる本校生徒の特徴

**概要**

- 国語においては、本校の平均正答率は全国や神奈川県と比べてやや高い状況にあり、またほとんどの設問において全国や神奈川県よりも正答率は上回っております。
- 数学においては、本校の平均正答率は全国や神奈川県と比べて高い状況にあり、またほとんどの設問において全国や神奈川県よりも正答率は上回っており、高い理解力を示しています。
- 国語・数学ともに、すべての設問に対して、無回答率が全国や神奈川県より低く、あきらめずに問題にチャレンジする姿勢も評価できます。
- 国語・数学ともに、主な特徴や課題については、全国や神奈川県の分析結果とほぼ同様の傾向を示しています。

**教科別の特徴**

- 国語では、「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」出題では、85%近くの生徒が正答し、全国の正答率を10ポイント以上も上回っています。一方で、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」出題においては、正答率は30%強にとどまり、全国の正答率よりも7ポイント近く低い状況にあります。
- 数学では、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」出題では、正答率が75%以上あり、全国の正答率を10ポイント以上、上回っています。一方、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」出題においては、正答率は8%にとどまり、全国の正答率より3ポイント程度低い状況にあります。

## 2 質問紙調査からわかる本校生徒の特徴（次項 グラフ参照）

生徒にとって「学校は楽しいところ」であり、本校の校訓にある「拓け夢を、築け人生の礎を」が実現できる場であってほしいとの願いから、令和3年度学校経営の重点目標として、『互いの良さを認め合い、自己有用感・自己効力感を高める生徒の育成』を設定しました。この重点目標に関連する設問を中心に考察します。

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の回答では全国や神奈川県と比べて、肯定的な回答の生徒が多く、約85%います。規範意識が高い生徒が多く、多くの生徒にとって学校が安全安心な場になっています。ただ、否定的な回答をしている生徒が一定数いることにも注目しなければならないと考えています。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」は自己有用感について、直接尋ねる問いです。全国や神奈川県に比較して、同程度の回答であり、約77%の生徒が肯定的な回答をしています。
- 自己有用感を高めていくことが自信につながり、将来に対しても前向きな考えをもつことができると考えます。そのことが、「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的な回答につながってきています。この問いに対する肯定的な回答をしている生徒は約71%で、全国や神奈川県と比べて多くいます。
- 自己肯定感の自覚を尋ねる問いである「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対しては、全国や神奈川県に比較してもう一步ですが、約91%の生徒が肯定的な回答をしています。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の肯定的な回答が全国と比べて低い。言われたことはできる生徒は多いが、自ら挑戦する心は十分に育っていません。

### 3 今後の改善点やお願い

○学校生活のあらゆる場面をとおして、「自己有用感（人の役に立った）」・「自己効力感（やればできる）」を高める生徒の育成に努めてまいります。また、生徒に挑戦しようとする経験や生徒の裁量にまかせる環境をつくっていきます。

- ・学級では子どもにそれぞれに役割を持たせることや、相互の良さを見つけ評価し合う場を設定すること、さらに主体的な学級活動を実践します。
- ・授業ではペアや小グループを積極的に活用し、話し合うことや教えあうこと、説明し合う活動を設定します。また、スモールステップに課題を提示することで、小さな成功体験を豊富に積み重ねます。
- ・生徒会活動・部活動などにおいては、生徒による主体的な活動を導き、互いのよさを認め合う場を作り出します。また、生徒主体の「絆づくり」ができるような異学年交流の場や機会を準備します。

○ご家庭では引き続き、お子さんとの会話に心掛けてください。子どもの学習や将来のこと、日々の生活の向上に対して家族が関心を持つことはとても大切なことです。思春期を迎え、対話が難しくなってくる子どももいますが、自己有用感を高めるためには、学校と家庭と地域が相互に連携して、子どもを見守り育てていくことが大切です。

**参 考**（令和3年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査結果から抜粋）

